

あの頃のボディ・コンシヤスのアライアや  
ティエリー・ミュグレーのドレスは、  
今、思い出してみても過激ですよ。

「日本の女性の大多数はコンサバ。男性の目にどう映るかを気にし過ぎかも」と中野さん。中野さんのファッション研究も「カレデイズムの中にあつて、抵抗する気持ちから始まったとか。」



て踊りに来ている子がいたり。遊び場に面白いファッションインフルがたくさんいました。音楽もニューウェーブが出てきたり同時にテクノカットの刈り上げスタイルなども出てきましたね。  
**中野** '80年代は映画をはじめカルチャーがオールジャンルで面白かったですよね、新しいものがたくさん出てきていた。映画だと『ストレンジャー・ザン・パラダイス』のジム・ジャームツシユ、のちにテレビシリーズ『ツイン・ピークス』で大ブレイクするデビッド・リンチ。

**野宮** '80年代は広告もデザインも面白かったですよね、パルコのものなんかとつてもおしゃれで、なおかつインパクトがありました。

**中野** バブルの時代でもあったので、デイスコでボディコンという流行もあ

りました。それにしても、あのエネルギーっていったい何だったんでしょうね？ 当時のボディコンのスーツ、〈アライア〉や〈ティエリー・ミュグレー〉のものなんか、今、思い出してみてもとっても過激ですよ。

**野宮** 私はそっちには行かず、もっぱらニューウェーブ系でしたが(笑)。今の'80年代のテイスト、ダサイのとカッコいいのと紙一重のあの感じ、自分のファッションに入れていこうかと。たとえば豹柄の靴に豹柄のタイトのコー

ダイネット。私のヘア&メイクをいつもお願いしている富沢ノボルさんが得意なのですが、そういう衝突コーディネートなどにも挑戦していきたいです。  
**中野** 衝突コーディネート、クラッシュユイ(CLASHY)ですね。微妙な匙加減でクラッシュユイしないと本当にダサくなってしまふ……。

**野宮** わかってもらえない人には全然わかってもらえないんですけど(笑)。  
**着物は衝突コーディネートが上級技なのかもしれない。**

**中野** モデルの<sup>\*</sup>アギネスは、その手のコーディネートでブレイクしました。この秋に映画版も公開される『セック・アンド・ザ・シティ』のサラ・ジエシカ・パーカーもそうでしょう。

**野宮** 彼女のコーディネートをしたパ



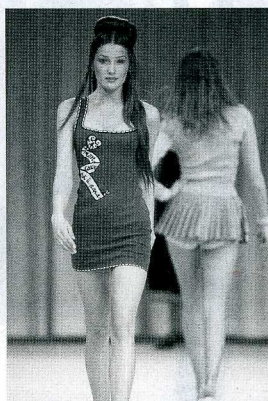
「柄×柄のコーダイネットの難しさは上級者向け。ただし、着物のレッスンにもなるので、大人の女性は意識しておきたいもの。」

趣味の善し悪しも「衝突」する上級コーダイネット!

トリシア・フィールドのセンスもその要素が強いですね。彼女のNYのブティックは、8thアベニューにある時から大好きでした。夜のクラブ遊びに行くときのストリート・ファッションですが、とっても冒険的。

**中野** クラッシュものはおそろくおしやれに飽きてしまつて、いわゆるファッションの禁じ手といわれるところに挑戦していこうという反骨精神の流れなのではないでしょうか。実はメンズの世界にもそういう人はいて、20世紀の伊達男の元祖、<sup>\*</sup>エドワード8世もクラッシュユイだったんですね。

**野宮** 私は7年くらい前から京都の着物に凝っているんですが、クラッシュユイは着物の柄物合わせに通じるところもあるかもしれません。モダン着物が流行つてますが、私は京都の古典的な着



〈アライア〉はピンキー&タイアン、ティエリーと並んでミニ・ボディ・コンシヤスの代名詞となつた。GAMMA/amanaimages

方が好き。まだまだ勉強中ですが。  
**中野** 着物も大人のファッションの重要なアイテムですよ。

**野宮** 着物は私にとって大人になってからの楽しみです。ファッションについて、私は特に大人になったから以前と変えようと思ったことはありませんが、お金が自由になったこともあり(笑)、素材のよい、クオリティの高い服を取り入れるようになりましたね。